

令和7年度全国学力・学習状況調査の宇部市の結果について

1 調査概要

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から

○全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することによって、国や全ての教育委員会における教育施策の成果と課題を分析し、その改善を図る

○学校における個々の児童生徒への教育指導や学習状況の改善・充実等に役立てる

○そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

(2) 調査期日 令和7年4月14～17日

(3) 学校数及び対象学年（人数）

① 市立小学校：24校 対象学年：第6学年（1, 246名）

② 市立中学校：12校 対象学年：第3学年（1, 142名）

(4) 調査内容

① 教科に関する調査

小学校（国語、算数、理科）

中学校（国語、数学、理科）

② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

ア 児童生徒に対する調査 【小学校： 71項目 中学校： 70項目】

イ 学校に対する調査 【小学校： 84項目 中学校： 84項目】

2 調査結果

(1) 教科に関する結果

① 全体の結果

○ 小学校、中学校ともに国語、算数（数学）、理科で全国平均正答率を下回っている。

小学校 平均正答率		国語	算数	理科
R7	宇部市	65	55	56
	全国	66.8	58.0	57.1
	山口県	68	58	58

中学校 平均正答率		国語	数学	理科(IRT スコア)
R7	宇部市	53	47	497
	全国	54.3	48.3	503
	山口県	55	48	503

※平成29年度から、都道府県等における各区分の平均正答率は整数値で提供

※IRTスコアとはIRT（Item Response Theory：項目反応理論）に基づき、各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点

②教科ごとの結果

【小学校国語】

・「我が国の言語文化に関する事項」、「書くこと」の領域において全国平均正答率と同程度だが、「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「情報の扱い方に関する事項」、「話すこと・聞くこと」、「読むこと」の領域において、全国平均を下回った。

【小学校算数】

・「数と計算」、「図形」、「変化と関係」、「データの活用」の領域において、全国平均正答率を下回った。

【小学校理科】

・「エネルギー」、「粒子」、「生命」、「地球」の領域において全国平均正答率を下回った。

【中学校国語】

・「話すこと・聞くこと」の領域において全国平均正答率と同程度だが、「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「書くこと」、「読むこと」の領域において、全国平均を下回った。

【中学校数学】

・「データの活用」の領域では全国平均正答率を上回ったが、「数と式」「図形」「関数」の領域において、全国平均正答率を下回った。

【中学校理科】

公開問題、非公開問題での実施のため、領域別の正答率のデータはなし。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査について

望ましい状況【全国より高い】	課題の見られる状況【全国より低い】
【小中ともに】 ○人が困っているときは進んで助けている ○困り事や不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる ○先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれている ○友達関係に満足している ○地域の大人に、授業や放課後などで、スポーツや体験活動に関わってもらったり一緒に遊んでもらったりしたことがある ○授業が自分にあった教え方、教材、学習時間になっている ○友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づけたりすることができる ○理科の勉強は好き 【小学校】 ○将来の夢や目標をもっている ○学校以外で勉強のための ICT 機器の活用時間 ○読書が好き ○理科の授業では、観察や実験をよく行っている 【中学校】 ○分からないことや詳しく知りたいことがあったときに自分で学び方を考え、工夫することができる ○国語の勉強は好き、よく分かる ○数学の勉強は好き、よく分かる	【小中ともに】 ●授業での PC・タブレットなどの ICT 機器の使用頻度 ●総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる ●ICT 機器を活用してプレゼンテーションを作成することができる 【小学校】 ●学校の授業時間以外に、普段、1 日当たりの勉強時間 ●家庭での読書時間 【中学校】 ●自分にはよいところがある ●将来の夢や目標をもっている